

Web刊

速報

ビジネスリーダー

マーケット

マネー

テクノロジー

ライフ

スポーツ

全て | 経済 | 企業 | 国際 | 政治 | 株・金融 | スポーツ | **社会** | その他ジャンル

速報 > 社会 > 記事

新生児前診断「陽性で出産断念」5.7% 岡山大調査

2013/8/28 11:56

小 中 大

保存

印刷

リプリント

Twitter

Facebook

共有

妊婦の血液検査で胎児の染色体異常を調べる新しい**出生前診断**をめくり、岡山大のグループが妊婦557人を対象にした意識調査で、5.7%が「陽性が出た時点で出産を諦める」と回答したことが28日、分かった。また、「陽性の場合、(より精度が高く、最終診断の根拠となる)羊水検査で本当に異常があるか診断する必要がある」ことを理解しているとの回答は34.5%だった。

陽性の場合、胎児がダウン症である可能性は35歳以上で80~95%とされるが、確定診断ではない。医療機関などには新しい出生前診断についての十分な説明が求められそうだ。

岡山大の中塚幹也教授らのグループは3~6月、兵庫県や広島県の病院で受診している18歳から44歳の妊婦557人にアンケートを実施した。

回答者は検査方法や精度など診断に関する知識を確認する質問に答えた上で、診断結果の評価などについて回答。陽性の場合、74%が「羊水検査を受ける」、20.3%が「羊水検査を受けずに妊娠を続ける」としたが、32人が「羊水検査を受けずに出産を諦める」とした。

出産を諦める理由について、59.4%が「少しでも異常の可能性があると回答。「週数が進んでからでは胎児がかわいそう」「羊水検査だと流産の可能性があると回答も多かった。グループは「羊水検査などを待たずに中絶してしまうと、安易に命が選別されてしまう恐れがあると警告している。

新生児前診断は4月からスタート。妊婦のおなかに針を刺し、流産の可能性もある羊水検査と比べ、血液だけで簡単にできることなどから関心を呼んでいる。

別の臨床研究グループの6月末までの集計によると、開始以来1534人が受診し、29人が陽性と診断された。2人は確定診断で異常がなかった。〔共同〕

小 中 大

保存

印刷

リプリント

Twitter

Facebook

共有

関連キーワード

中塚幹也、出生前診断、血液検査、岡山大

Surface タイプ
カバー
購入する

VGA アダプター
(Surface RT用)
購入する

ニュース詳細

| 東日本大震災 | 47トピックス | コラム「日めぐり」

7

ツイート 140

いいね! 9

コメント

B!

チェック

LINE

新出生前診断「陽性で中絶」6% 「命選別、加速の恐れ」

妊婦の血液でダウン症など胎児の染色体異常を調べる新しい出生前診断をめぐり、岡山大のグループが妊婦557人を対象に実施した意識調査で、5・7%にあたる32人が「陽性が出たら出産を諦める」と回答したことが28日、分かった。グループによると新しい出生前診断をめぐる妊婦の大規模意識調査は初めて。

陽性の場合、胎児がダウン症である可能性は35歳以上で80～95%とされるが、最終診断ではない。グループは「(より精度の高い)羊水検査などを待たずに中絶してしまうと、安易に命が選別されてしまう恐れがある」と警告している。